

外国人科学・技術研究者に対する短期集中日本語教育コース 修了者への追跡調査報告

金田一 京子

要 旨

当センターでは、先端科学・技術分野の研究者に対する日本語教育のための基礎力養成過程が、いわゆる一般の日本語教育とはどの程度異なり、あるいは共通しているものなのか、どのような教授法がこの分野の研究者には有効であるのかを、明らかにしようとする研究が続けられている。また、先端科学・技術分野の研究者に対する日本語教育のコース運営についても研究が行われている。本研究は、以上の研究の一環として、短期集中日本語教育コース修了半年後の追跡調査をし、先端科学・技術分野の研究者達および受け入れ側にとって、コースはどうであったか、どうであってほしかったか、今後はどのようであればいいのか、を検討するものである。

〔キーワード〕 先端科学・技術分野の研究者 追跡調査 短期集中日本語教育

1. はじめに

1989年8月に、アメリカ人科学・技術研究者を対象とする4週間の短期集中日本語教育初級日本語コースが初めて筑波大学留学生センターで実施された。コース参加者は NATIONAL SCIENCE FOUNDATION、文部省および日本学術振興会外国人特別研究員¹⁾として1年間あるいは2年間各所属機関で研究することになっている先端科学・技術分野の研究者達である。コース修了後は東京都心にあるW大で研究するA氏(1990年3月追跡調査時、28才)、秋田の農村にぼつんと建っている県立大学付属研究所で研究するB氏(同、30才)、京都のK大で研究するC氏(同、29才)、東京の国立研究所で研究するD氏(同、54才)、T大で研究かつ教鞭をとるE氏(同、30才)、以上5名の男性達である。日本語学習に関しては、全員が初めてである。

コース受講前に、彼らの外国語能力、外国語学習経験、外国滞在経験、日本語学習の有無、コース修了直後にはこのようであってほしいと彼らが自分自身に期待する日本語能力と一年後の日本語能力、等について英語で面接し質問した。その結果は、1人を除く4人が、二、三カ国語(フランス語、ドイツ語、スペイン語であり、全く系統の違った言語ではない)の外国語学習をしており、海外滞在経験もあるということであった。ただし、一人のフランス語を除いて、皆、あまり上手ではないと答えている。また、滞在期間も、英国の3年を除くと、4、5カ月がほとんどであった。彼らの日本語コースへの期待は高く、修了時には最低必要な日常会話はできると考えており、一年後には講義が出来たり、日本人と共同で日本語の論文が書けたり、友人と話が楽しめたり

するのではないかと考えている。ただし、外国語習得にはやや高齢であると自らが考えているD氏は、一生懸命やれば日常会話ぐらいは出来るようになるのではないかと考えているが、一年後の予想の言及を避けていた。

コース³⁾は、7月31日の日本語についてのオリエンテーションを皮切りに、8月3日から28日まで月曜日から金曜日の週5日、9時から15時25分まで集中授業として行われた。

基本指導方針としては、

- 1) 1カ月で身につけた知識能力を基礎として、日本人とのコミュニケーションに必要な日本語の要素的能力を伸ばしていけるような内容にすること。
- 2) ある「場面」での目的行動を達成するための能力項目を念頭において、言語コンピテンスを含むコミュニケーション・コンピテンスの育成・トレーニングをすること。
- 3) 発音、動詞の活用、助詞は、コミュニケーションのための発話を形成する不可欠のものであると位置づけ、テキストの進度とは別に計画を実施する。
- 4) テキストとしては前年度から開発してきた筑波大学留学生センターの教科書（New Situational Functional Japanese）²⁾の1、2、3、4、5、10、12課を使用する。

の4点に重点をおいた。ここで使用する課を上のように定めた根拠は、まず、日常生活に密接に結び付いた「場面」であり、そこでの行動を支障なく達成するための知識と、日本語能力を含む行動達成能力を養成できること。次に、各課で得た知識と能力を応用すれば、日本における行動力も言語力も伸びるはずであると考えられること。最後に、日本語という言語を、コミュニケーション手段の一部に位置づけるという発想を与えられること、等である。

また、コースで意識的になすべき点として、

- 1) 会話の最終目的（行動）を確認させること。
- 2) その場面に不可欠な語彙を重視すること。
- 3) 場面に関する知識を重視すること。
- 4) 会話の流れを重視すること。すなわち、会話の流れを途切れないようにするためのストラテジーを重視すること。
- 5) 学習した後で、何ができるようになったかを、学習者自身が自己評価し、確認するようにさせること。

などが考えられた。

以上のコース修了半年後、先端科学・技術分野の研究者達および受け入れ側にとって、コースはどうであったか、どうであってほしかったか、今後はどのようであればいいのか、を検討するために、以下の追跡調査を行った。

2. 調査について

2. 1. 調査の実施方法と項目

調査は、1990年2月末から3月末(コース修了約半年後)にかけて面接とアンケートによって行った。調査対象者は、1989年8月に先端科学・技術分野の研究者に対する短期集中日本語教育コースを受けた5人のアメリカ人である。調査実施者は、そのコースで教えた日本語教師2名である。実施方法は、コース修了者の研究所に赴いての直接面接法によった。

調査項目は以下の通りである。

(1) 6カ月後の日本語能力調査

- 1) Re-testにより聞く能力、文法能力の変容を調べる。
- 2) 日本語の面接により聞く・話すの日本語能力の変容を調べる。
- 3) 語彙再生テストによる現在の語彙力を調べる。

(2) 日本語学習者の現在の日本語環境調査

- 1) 学習者との面接(英語で)から、学習者の日本語を中心とした環境を調べる。
- 2) 学習者のアンケート回答と、面接(英語で)から、学習者が必要としている日本語能力とはどんなものであるかを調べる。
- 3) 受け入れ側の指導教官との面接から、期待される日本語能力とはどんなものであるかを調べる。
- 4) 同僚との面接から、学習者にとって要求される日本語・その他の問題などを調べる。

(3) 今後の日本語教育についての意見の聴取

- 1) 教育期間、方法、内容、教材等に対する学習者からの要求・意見を聞く。
- 2) 同じく受け入れ側からの要求・意見を聞く。

2. 2. 調査内容

調査内容は、以下の7つの項目についてである。

(1) Re-test について

個別に実施した。時間ははっきりとは限定しないが、1時間前後(一応一通りできるまで)かけた。Re-testの内容(資料1参照)は、コース中の8月17日に実施したReview-Test(資料2参照)と8月28日に実施したAchievement-test(資料3参照)から抜粋したものである。

(2) コース終了者との面接(1)について

個別に日本語で20分から30分かけて2人の教師で面接した。まず最初は、学習者にはこれがテストだとは思わせなかつたで、久しぶりに会った日本語教師に、自分のいる町、研究室、研究について雑談形式で日本語で話させる。つぎに、白紙に名前、国籍、来日月日、離日月日を書かせて、この情報を付け加えたかたちで、先の話のを要約して一人で話させる。

(3) 語彙再生テストについて

30分から40分ぐらいかけて、自分の知っている日本語をできるだけたくさん書かせる(ローマ字でも可)。もし必要なら、時間を伸ばすことはできる(しかし、本調査では伸ばす必要はなかった)。この間、教師が邪魔のようであったら席を外した。

(4) コース修了者との面接(2)について

個別に20分から30分かけて教師2人が英語で面接した。面接の内容項目は、資料4⁴⁾を参照されたい。

(5) コース修了者へのアンケート調査について

英語で書かれた質問用紙に、書いて答える。時間が十分にとれない場合には、回答は郵送してもらった。内容は、資料6を参照されたい。

(6) 指導教官との面接について

個別に教師2人で面接した。質問の基本的内容は、資料5⁴⁾を参照されたい。場合により随時変更するが、おもに学習者のおかれている状況、学習者へ期待するもの(日本語だけに限らず)、コースに期待するものを中心に聞く。

(7) 同僚との面接について

修了者が研究所内で一番よく世話になっていると思う同僚に予め面接をお願いして、個別に教師2人が面接した。質問は基本的には指導教官と同じであるが、日本での生活をいろいろな側面で手助けしている友人・同僚として、より具体的に、詳しく、かつ、公けの立場としてではない側面から日常的に感じているいろいろなことを話してもらう。

3. 調査の結果と考察

調査結果の分析・検討は次の点から進めていく。

(1) 読み・聞く・話す・について、コース修了直後と半年後を比較検討する。

1) 全体の比較検討

2) 個人別比較検討

(2) コース修了者からの日本語コースへの評価・要望をアンケートおよび面接の結果から、検討する。

(3) 受け入れ側からの日本語コースへの評価・要望を面接の結果から、検討する。

(4) 今後のコースの課題について検討する。

3. 1. Test と Re-test の比較

(1) 聞くことについて

問題1は、単語を聞かせて長音・拗音・促音等が識別できるかどうかの問題である。例えば、「しようにん」「しょうにん」の聞き取りなどである。(資料1) Test では全答正解者が4人もいたが、

<Re-testの結果> (表1)

問題番号	A (%)	B (%)	C (%)	D (%)	E (%)	平均 (%)
A1	60.00%	20.00%	70.00%	50.00%	80.00%	56.00%
A2	100.00%	50.00%	50.00%	100.00%	50.00%	70.00%
A3	100.00%	75.00%	75.00%	0.00%	100.00%	70.00%
A4	75.00%	37.50%	60.75%	43.75%	81.25%	61.25%
A5	75.00%	87.50%	87.50%	87.50%	100.00%	87.50%
A6	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
A7	84.62%	92.31%	92.31%	92.31%	100.00%	92.31%
A8	79.31%	62.07%	79.31%	65.52%	89.56%	75.17%
A9	67.74%	62.90%	75.81%	62.90%	90.32%	71.94%
A10	86.67%	73.33%	73.33%	100.00%	90.00%	84.67%
A11	73.91%	66.30%	75.00%	75.00%	90.22%	76.09%
A12	75.21%	65.29%	76.03%	72.73%	90.08%	75.87%

<TestとRe-testの結果> (表2)

問題番号	A (%)	B (%)	C (%)	D (%)	E (%)	平均 (%)
合計	84.62%	75.00%	84.44%	81.65%	88.89%	81.25%

- A1: 聴解問題 (ふさわしい回答)
- A2: 聴解問題 (道を開く)
- A3: 聴解問題 (箱解で買物)
- A4: A1-A3の合計
- L: 聴解問題 (長音等)
- D: 聴解問題 (単語書取)
- LD: LとDの合計
- P: 助詞欠理め
- V: 助詞の活用
- PV: PとVの合計
- 合計: A1, A2, A3, L, D, P, Vの合計

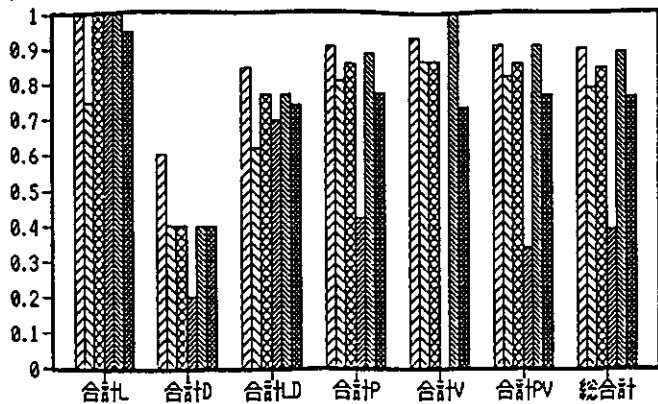
Re-test では1人になっていた。しかし、それぞれは1、2問間違う程度であった。

誤答の多かった問題は「かいてい」を「かいて」と、「たにん」を「たんにん」と誤って聞いているものであった。「かいてい」は実際には「かいてー」と発音され、この「てー」の部分が聞き取れなかったと解すべきであろう。

このような間違いは、アメリカ人学習者にはよくおこることであるが、コース修了直後には聞き取れていたものが、なぜ半年後には間違えてしまうのかについては、次のような事が考えられるかもしれない。コース中は、常に聞き取りのテープを聞かせ注意を促していた。彼らは、実際には正確に聞き取れてはいなかったにもかかわらず、自分の犯す間違いの傾向を知っており、ある音を聞いたとき本来は自分には聞こえていない音が正しくはこうであるという法則を個々人が作っていたのかも知れない。それで、ある音が聞こえてきたとき実際には聞こえているわけではなくても、聞く構えができていたために、それが聞き取れていたにちがいない。いうなれば、短期の聞きストラテジーができていたのかもしれない。しかし、半年後は、この聞く構え/聞きストラテジーがなくなっていたため、「かいてい」の表記には「かいてー」と発音されるのだということが忘れられて、誤答が多くなったと考えられるのではなかろうか。



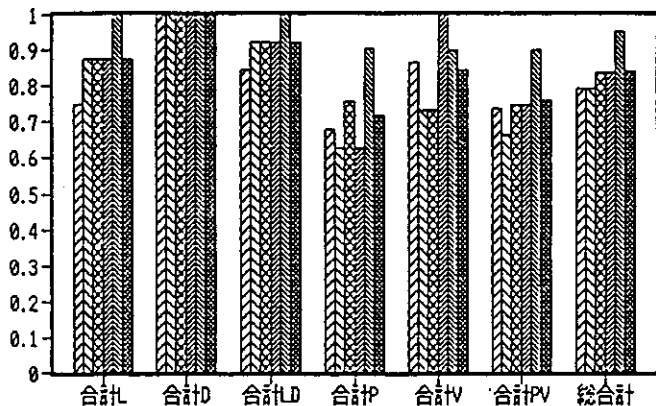
Test結果 (グラフ1)



L : 聴解問題 (英語等)
 D : 聴解問題 (中国語等)
 LD : LとDの合計
 P : 語彙問題の
 Y : 語彙問題
 PV : PとVの合計
 総合計 : L, D, P, Vの合計

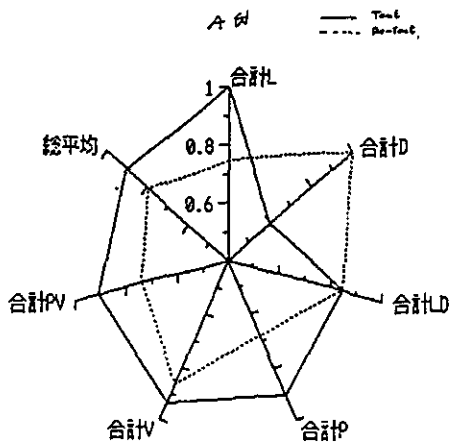


Re-test結果 (グラフ2)



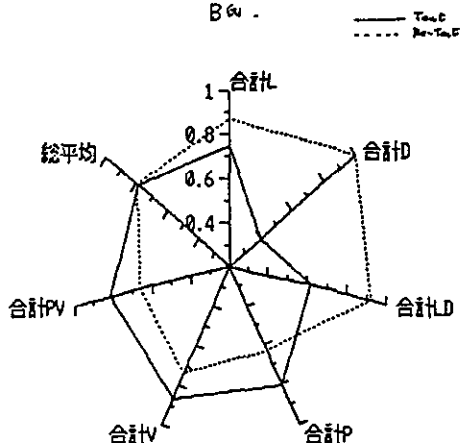
L : 聴解問題 (英語等)
 D : 聴解問題 (中国語等)
 LD : LとDの合計
 P : 語彙問題の
 Y : 語彙問題
 PV : PとVの合計
 総合計 : L, D, P, Vの合計

(グラフ3)



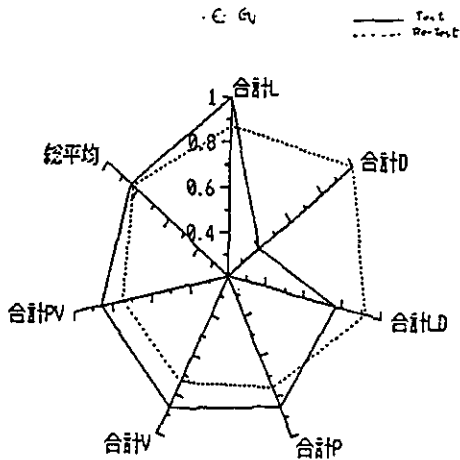
L : 聴解問題 (英音等)
 D : 聴解問題 (英文音読)
 LD : LとDの合計
 P : 読解問題
 V : 読解の範囲
 PV : PとVの合計
 集合計 : L, D, P, Vの合計

(グラフ4)



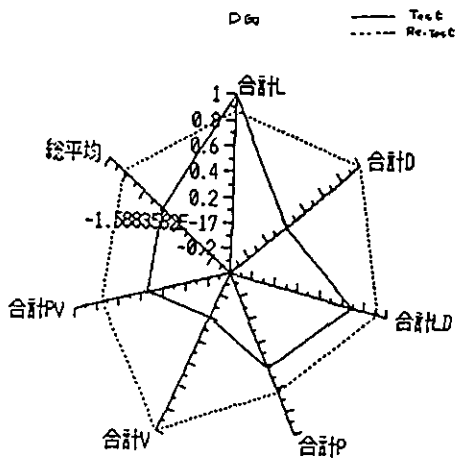
L : 聴解問題 (英音等)
 D : 聴解問題 (英文音読)
 LD : LとDの合計
 P : 読解問題
 V : 読解の範囲
 PV : PとVの合計
 集合計 : L, D, P, Vの合計

(グラフ5)



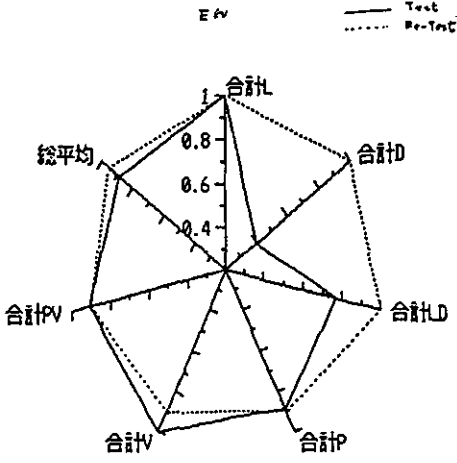
L : 聴解問題 (英音等)
 D : 聴解問題 (英文音読)
 LD : LとDの合計
 P : 読解問題
 V : 読解の範囲
 PV : PとVの合計
 集合計 : L, D, P, Vの合計

(グラフ6)



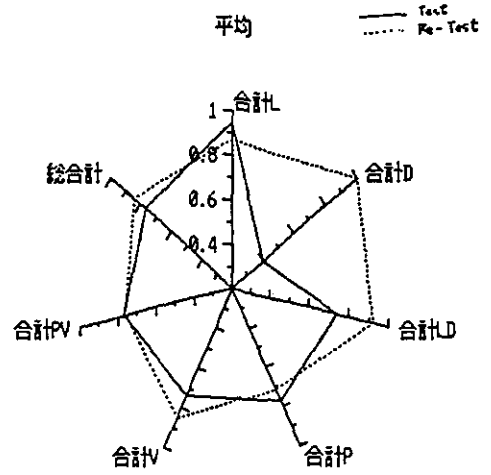
L : 聴解問題 (英音等)
 D : 聴解問題 (英文音読)
 LD : LとDの合計
 P : 読解問題
 V : 読解の範囲
 PV : PとVの合計
 集合計 : L, D, P, Vの合計

(グラフ7)



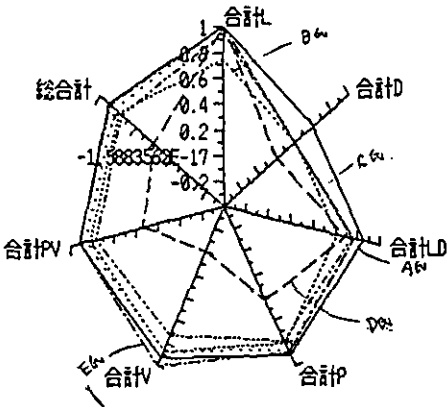
L : 理解問題 (長答等)
 D : 理解問題 (短文等取)
 LD : LとDの合計
 P : 読解力等の
 V : 読解力等の
 PV : PとVの合計
 総合計 : L, P, Vの合計

(グラフ8)



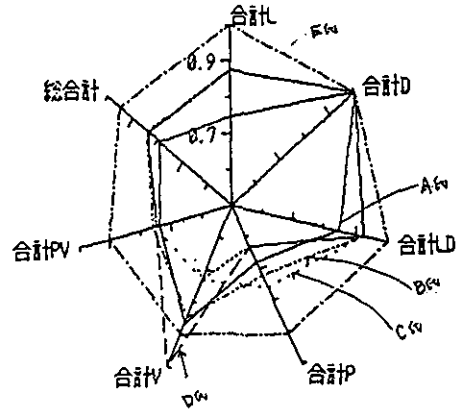
L : 理解問題 (長答等)
 D : 理解問題 (短文等取)
 LD : LとDの合計
 P : 読解力等の
 V : 読解力等の
 PV : PとVの合計
 総合計 : L, P, Vの合計

全員のプロフィール (Test) (グラフ9)



L : 理解問題 (長答等)
 D : 理解問題 (短文等取)
 LD : LとDの合計
 P : 読解力等の
 V : 読解力等の
 PV : PとVの合計
 総合計 : L, P, Vの合計

全員のプロフィール (Re-Test) (グラフ10)



L : 理解問題 (長答等)
 D : 理解問題 (短文等取)
 LD : LとDの合計
 P : 読解力等の
 V : 読解力等の
 PV : PとVの合計
 総合計 : L, P, Vの合計

問題2は、短い文の聞き取りである。「ちょっと、郵便局まで」といった日常よく聞きそうなレベルの聞き取り問題である。

TestではA氏が60%できていた以外は皆半分以下であったが、Re-testでは全員全問正解であった。Testのときは意味もよく分からず、聞き取れる音だけをたよりに聞き取っていた状態であったが、このRe-test中は1回目で意味がとれた様子で、直ちに書き出すものが多かった。実際、テスト終了後に確かめると意味が正しく理解されていた。「自動販売機」は、Testでは誰一人正確に聞き取ることができなかつたのであるが、Re-testでは全員が意味をもわかって聞き取っていた。

これらの問題は、日常的によく聞いたり、実際に使ったりしていることばである。このように意味がとらえられたものは、正しく表記もされていた。問題1で「かいてい」が正しく聞き取れていなくても、「経済」はたとえ「けーざい」と聞こえようとも「けいざい」と聞き取られ、書かれていた。

聞き取りについて、この調査ではもう一つ行なっている。それは、コース直後のTestでは行われなかったものではあるが、彼らの実際の聞き取り能力がどの程度なのかを知るためのものである。これは、上記の聞き取り問題とは少し異なり、必要な情報が正しく聞き取れるかどうかをみる問題である。Re-testの結果表にはA1、A2、A3と表した。

A1は、挨拶等のような簡単な会話を聞かせ、ふさわしい応答会話をしているものを選ばせる問題である。たとえば、A：「こんにちは」、B：「こんばんは」とか、レストランでA：「なにになさいますか。」B：「カレーでしょう。」などといった、ふさわしくない応答の中からの4肢選択問題である。全体としては、半分の正解である。個人差が激しく、10問中2問しか答えられないものから、8問答えられるものまでいる。

A2は道を尋ねる問題であり、その会話から正しく位置が指定できるかどうかを調べる問題である。2問中2問とも合ったものは2人、1問合ったものは3人と、全然分からなかったものはいなかった。

A3は靴屋での会話で、客と店員との会話から、サイズ、色、値段を聞き取る問題である。1人が4問全問とも誤答してしまった。(答えが書かれてはいるが、客が最終的に決めたものではなく、店員にあれこれと聞いている段階のものが書かれてあった。)2人が全問正解。2人がそれぞれ、値段、色をまちがえていた。

A1、A2、A3の全体の平均では、半分よりややいい(61.25%)程度であったが、70%前後聞き取れているもの(3人)と、40%前後しか聞き取れていないもの(2人)とに分かれていた。

この結果は、問題1、2での聞き取りの結果とは対照的である。問題1、2では大体が聞き取れており、個人による差がなかった。しかし、問題2のようなよく使う一文の日本語の聞き取りならコース直後よりよく聞き取れても、簡単な挨拶のような会話でさえも、ちょっと続く会話になると、ほとんど聞き取れないものと、どうにか聞き取っているものとに分かれる。A1、A2、A3の平均で40%前後しか聞き取れていなかったもの(2人)は後に触れるが、職場でほとんど日本語を話

していないか、あるいは職場以外で日本人との接触が少ないと自己報告しているもの達である。このような易しくても続きものの会話への理解は、彼らの日本語環境が関係しているのではないかとと思われる。但し、この2人は、コース直後の問題1、2の平均得点が全体平均よりやや低い。コース中、聞き取りに苦勞していたのは、この2人であった。聞けないから、自然に職場や職場以外での環境を日本語から遠くにおいてしまったのかもしれない。もし、このような悪循環が想定されるようであれば、コース中の「聞く」能力向上の授業の開発が、早急に必要とされる問題になるのではなろうかと思われる。

(2) 文法力について

問題3は、助詞の穴埋めである。例えば、「ゆうびんきょく()きって()かいました。」といったものである。

問題3の正解率は、全体の平均が71%と他のどの問題の平均よりも悪い。また、Test (77.42%)のときよりほんの少し悪くなっていた。

間違いの多かった問題は、「アイス(に)します」「別々(に)してください」「背(が)高いです」「他(の)人(に)聞いて下さい」「バス(に)のりました」等の一つの言い回しとして覚えるようなもの、動詞との関連で決まるようなものであった。

また、会話文の中で、「銀行(も)ありますか」「いいえ、銀行(は)ありません」などの「いいえ」で答える場合が正しく答えられなかった。「いいえ、～(は)～せん」として、「も」を「は」にしなければいけないのであるが、それができなかった。

他には、文型として「～(と)～(と)どちら(の)ほう(が)～か」、「～の中で(で)～が、一番～」の問題が、同じくほとんどのものが答えられなかった。

ところで、どの人にも共通に、Testで間違った問題はRe-testでも同じ間違いをしている。以上のことは、助詞に関してはコース直後の状態より悪くなることはあっても、自然に身につけてよくなることはなかったということを表している。すなわち、この半年間には助詞を学習したものはなかったといえるであろう。これは、一つには、ほとんどの人がコース終了後日本語を日本語学校で学ぶ機会がなかったこととも関係があるのではないだろうか。少々間違っても大局的に日本人と意志の疎通が出来ればよしとする状況では、助詞のような小さな事に思われがちなのは、自然の日本語環境では学習されにくいものであるのかもしれない。しかし、助詞の軽視は、もう少し複雑な日本語のやり取りをしようとした場合、日本語の学習の積み重ねを困難にしていくものと危惧される。日本語環境からだけでは習得し難いものであれば、何らかのかたちで積極的に日本語教育をしていった方がいいのではないかとと思われる。

問題4は、動詞の活用形を聞いたものである。Testでは73.33%であったが、Re-testでは84.67%とよくなっていた。間違いの多かった動詞は「使う」「習う」「買う」で、その「～て形」をきいたものであった。

全体では Re-test (84.20%)の方が、Test (76.22%)よりも全体平均では上回っていた。しかし、助詞だけは下回っていた。

個人別では以下のものであった。

A氏：ディクテーションは良くなったが、音そのものの聞き取りは Test より悪くなっている。

文法の側面も弱くなっている。

B氏：Test では聴解 D が悪かったが、Re-test では良くなっている。各問題間の差も少なくなった。聴く問題では聴解 D も L も両方とも伸びている。助詞、活用形ともに少し悪くなっているが、総平均では Test と変わらず、バランスがとれてきている。

C氏：Re-test の総平均は Test とほとんど変わらない。聴解 D は良くなったが、文法は反対に弱くなっている。全体の各問題間の差が少なくなっている。

D氏：Test に比べてかなり良くなっている (83.65%)。Test においては各問題間の差が激しかったが、Re-test では全体のバランスも良くなった。

E氏：今回の受講生の中で確実に伸びている。各問題の得点も、聴解 D 100%、聴解 L 100%、助詞、90.3%、活用90.0%、と高い。総平均も95.11%である。この学生は、コースの終わりごろには日本語の文法の全体像を把握しかかっていると思われた唯一の受講者であった。

(3) 読みについて

読みについてはコース設定の段階で、平仮名が分かる程度を目指し、とくに短期に専門書が読めるようになるような目標は掲げなかった。反対に、コミュニケーションがうまく出来るようになることへの基礎がためをすることであった。そのため、読解の時間はとくに設けられず、ただ平仮名が読めるようになることが読みの最低限の要求として行われたものであった。

以上のことを踏まえて、彼らの読みの力を検討した。

読む能力を知るための特別な問題を施行するようなことはしなかったが、平仮名で書かれたテスト用紙の理解状況から検討してみると、Test の時よりもよいとはいえないようである。コース終了直前の Test を受けているときとあまり変わらない速度で読んでいる。ただし、Test では平仮名の部分を全部ローマ字に直さなければ気の済まなかった人たちが、Re-test ではローマ字を書き込んでいる人はいなかった。半年間日本語を読んだり書いたりをとくにはしてこなかったようであるが、忘れてはいなかったようである。速く読めるようになっているわけでも遅くなっているわけでもなく、コース中と同じレベルを保ち続けるように見受けられた。

また、書かれているものがどういった意味のことであるかは、耳で聞いてわかるものはわかるといった理解力であるといえる。

ところで、自分達の読み能力について、アンケートの所でも触れるつもりであるが、もっと必要であると思っているようである。

(4) 話すことについて

面接の内容は、1) 自分のいる町の様子、2) 研究室の様子、3) いま行っている研究について尋ねることであった。聞き方はいかにも面接といった形ではなく、世間話のような形で20分近く聞いたり話させたりするものである。面接者との会話の中で学習者から日本語の言葉を尋ねられた場合には、適切な日本語を与えた。このような会話をした後、名前、国籍、来日・離日の年月日を付け加えさせて、先の会話の要約を一人で話させることをした。

その結果は、次のようであった。

二つのタイプに大別される。一つは、こちらの質問もよく聞き取れず、ほとんど英語で質問を繰り返し、答えも日本語でしようとしても日本語が単語のレベルでしか出てこず、英語の会話を聞いては面接者が日本語の文レベルになおしていかなければならないもの。他の一つは、これぐらいの会話ではほとんど日本語ででき、英語は専門の自分の研究をより詳しく説明しようとして日本語の言葉を尋ねてくる程度といった、かなり話せるもの。このように大きな開きが生じていた。また、これらのよく話せる人たちは、尋ねられていないことまで、自分の方から話を進めていき、会話を楽しんでいる様子さえ見受けられた。しかし、まだ、いちいち日本語と英語を行ったり来たりしてなかなか日本語の会話が進まない2人は、その度毎に日本語への聞き返し、あるいは「そうです、そうです。」等の言葉が入り、大きくため息をついて、なかなか会話の中味に入っていけない。

しかし、一人で話す後の課題については、名前を言い、国籍を言い、来日・離日を言うといったレベルの自己紹介は、全員完璧に近い形で話すことができた。話す速さ、滑らかさもよかった。しかし、自分の住んでいる町の様子や研究室の様子は、面接の間ではかなり日本語に換えて言えたにもかかわらず、B氏やD氏は文レベルでは話せない。C氏、A氏、E氏は自分の話せる形になおして、会話での内容を要約して話すことができた。しかし、複文のレベルは、面接中の会話の中では、面接者の日本語の後を楽について繰り返して言えたが、一人で話すときには、どの人からもこの複文レベルの文は産出されなかった。

個人別では以下のものであった。

A氏：質問も良く聞き取れ、質問に答えるだけでなく、自分の話題を次々に付け加えて話すことができた。

B氏：こちらからの質問がよく理解されない。名前や国籍の自己紹介は完璧にできたが、研究室や町の様子の説明は難しい。

C氏：こちらの質問はよく聞き取れる。また、質問されたもの以外についても説明ができる。

D氏：こちらの質問がよく理解されない。聞き取り違いがある。自己紹介は正確にできたが、それ以外は単語レベルの会話である。

E氏：こちらからの質問は、よく聞き取れ理解できる。自分の今の状況の説明もできた。

(5) 語彙再生について

再生語彙数は以下の通りであった(表3)。

<再生 彙数> (表3)

	A 氏	B 氏	C 氏	D 氏	E 氏	平均
動 詞	43	16	17	34	27	27
名詞 等	215	154	105	46	71	118
形・形動	19	12	17	19	12	16
合計(語)	277	182	139	99	110	161

語彙の詳しい内容は、資料7を参照されたい。

再生された語彙と習った語彙についてみると、動詞については、再生語彙数は最高43語最低16語とばらつきがあるが、どの人の再生動詞にもいえることは次の二点である。第一点は、再生された動詞は5課までの動詞で、それ以降の課(10課、12課)の動詞はほとんど再生されていないことである。ただし、10課は形容詞が主な課であり、動詞は「知らせる」「着る」「降りる」「違う」「試す」「探す」などが会話の中で扱われたにすぎないので、再生には至らなかったのは無理もないことかと思われる。しかし、12課においては、ある場所への行き方を問う課であり、移動動詞や「見える」「聞こえる」等の重要語彙が扱われていたのであるが、再生はされなかった。第二の点は、教科書以外の動詞はほとんど現れていないことである。教科書以外の動詞で書かれたのは、A氏の「似る」「巻く」「(大根を)おろす」「焼く」、E氏の「親しむ」「進む」「注ぐ」「送る」「投げる」だけであった。動詞の類は、日常生活の中では獲得されにくいのであろうか。

次に、形容詞・形容動詞についてみると、再生語彙数にはばらつきがなく、12語から19語以下であった。語彙そのものについてみると、授業中語彙として触れた程度で、学習させる課としては取り上げなかった6課、7課、9課からの形容詞・形容動詞等の基本語彙が再生されていた。この点は、動詞とは対照的である。動詞は習った課の中だけから再生されており、それ以外の課からは再生されていない。それに対して、形容詞・形容動詞は、習った課以外でも授業中触れた程度の語彙についても再生されていた。しかし、教科書以外の語彙は、動詞同様ほとんど書かれていなかった(A氏の「すごい」のみ)。動詞同様、形容詞の類は日常生活の中では獲得されにくいのであろうか。あるいはまた、日常生活の中で良く使われるような語彙は教科書で扱われており、それ以外の形容の語彙を獲得して頻繁に使うような場面があまりないからなのであろうか。いずれにせよ、動詞、形容詞・形容動詞は、コース中の学習語彙から伸びることはなかった。

それに比べると名詞は、再生語数は最高215語、最低46語と個人差も激しく、語彙の内容もいろ

いろであった。日本人の友達がいる、毎日のように日本語の会話をしている A 氏の語彙数が一番多かった。反対に、ほとんどの会話は英語でし、研究所内だけでなく生活の場でも何から何まで職場の人がお膳立てをしてくれているという D 氏の語彙数が一番少なかった。

ところで D 氏同様、面接や雑談の中での日本語の会話はほとんど単語どまりで、文のレベルでは会話ができなかったが B 氏が、154語で第二番目に多かった。研究所以外で日本語が通じないと悪戦苦闘をしていた B 氏が、D 氏に比べ、語彙が多かったのは、日常的に日本語を話すことが要求される度合の高かった環境のせいかもしれない。どの人の語彙も、日常身の回りにある物や食べ物の名前であったり、自分の専門で使う言葉であった。名詞は、先の動詞や形容詞・形容動詞に比べ、環境からの習得語彙が多かった。

3. 2. コース修了者からの日本語コースへの評価・要望の検討

修了者への面接やアンケートから得た結果は、次の表（表4）に示した。

どの人も研究所内では、ほとんど英語で通している。話の内容は、研究についてとほんの少しの世間話であった。実際に現地に赴いた調査者も、彼らがほとんど英語で会話をしているのを聞いた。調査者と日本語で話すのを聞いて、スタッフから「今日初めて、彼の日本語を聞いた」と言われていた人もいた。彼らの毎日は、朝早くから夜遅くまで実験室や研究室に閉じ込められ、あまり日本人との会話がないうのであった。彼らが研究室で困ることといえば、研究以外のことが主で、例えばコピー機が壊れたときの処置の仕方等のややこしいことになると、職員に対しては英語で用が足せず、困ったといったぐらいのことであった。研究そのものに対しては、英語ですべてできるので、余り困難さは感じていなかったようである。研究以外の場については、彼らには、日本語が必須になるような場が余らないので、不自由であるとはあまり感じないようであった。研究だけで、それ以外でのいろいろな体験の場が少ないことに関しては、残念だとは思っている。研究が忙しいために、それ以外の時間を作ることが難しく仕方ないと考えているにもかかわらず、できるだけたくさん日本人と話したり、日本のことを知りたいと考えており、いろいろな所に行きたいと考えているようであった。その時に使う言葉は、日本語と英語の半々であったりするようであるが、国際都市に住んでいる場合は必要な要件はほとんど英語で通じることもあって、いかなる場でもほとんど英語で通してきたものもいた。一方、地方の小都市に住んでいる場合は、研究所以外での日常会話が方言でわかりにくいこと、土地の人が外国人になれていないこと等で、大変なようであった。

研究所内に学生や大学院生がいる場合、大学院生達が楽しみながら一緒に家を探してくれたり、銀行につれて行ってくれたりしたようである。彼らが話す英語混じりの日本語で世話を受けながら、一緒に行動をしたり、いろいろな日本文化を楽しみながら吸収していったようであった。それに比べ、研究員と職員をみの職場の場合、日本の事情に通じた職員・研究員が日常の世話をすることになり、合理的かつ能率的に問題が解決でき、かつそれらが英語でなされてしまうために、一般の日本人との関わりがほとんどないままに生活をしているものもいた。

アンケートから、次のようなことがわかった。

コース後日本語の勉強を続けているものは、5人中2人(大学以外の機関で)にすぎなかった。しかし、日本語教育の機関がない、時間がない等の理由でそれが出来ないものも、出来れば続けたいと思っている。

コース直後と現在を比べて、自分では日本語能力をどう思っているかについては、文法以外はほとんどのものが現在の方が良くなっているか、同じだと思っており、文法は直後の方が良かったと思っているものが2人いた。

日本語で困難があったことは、コンピュータのマニュアルが読めなかったり、図書館での資料探しが早くできなかつたりしたこと等があげられている。

センターで学んで良かったと思うこととして、日本語の基本を学んだこと、上達への基盤を学んだこと、サバイバル技術を学んだことなどがあげられていた。

また、もっと学びたかったこととは、片仮名・漢字、日本の習慣、基礎会話、等であった。このコースでは片仮名と漢字は全く導入しなかったのであるが、片仮名は薬物名や科学用語に使われることが多く、必要であるから学びたかったと言っている。また漢字についても、数字の漢字、記号のように日常的に必要な度の高い漢字は学びたかったと要望があった。

期間についての希望は、6週間2人、4～5週間3人、3～4週間1人であった。その理由としては、2週間たった頃から日本語の組立てがわかり始めて、頭に入るようになった、1カ月以下では不十分だが、それ以上になると、頭が変になりそうだ、などの感想があった。どの回答者も口を揃えて言っていたことは、自分たちは研究が目的なのであるから、余り長い間研究からはなれて日本語だけを学ぶことは耐えられないということであった。

アンケート以外での面接の結果でも、彼らが望むことは、早く赴任地に行って現地での生活・研究基盤を作り、それと平行して日本語学習をしたいということであった。

学習期間が延長されることは、どの学生も望んではいなかった。

〈面接やアンケートから得たこと〉(表4)

		A 氏	B 氏	C 氏	D 氏	E 氏
人	1) 研究所内で だれと	1) 研究所内で 指導教官・大学生 スタッフ	1) 研究所内で 指導教官・大学生 スタッフ	1) 研究所内で 指導教官・研究員 スタッフ	1) 研究所内で 所内研究員・スタ ッフ	1) 研究所内で 大学院生・ 教授たち・秘書 事務官
	何について	研究・世間話	研究・世間話	研究・世間話少し	研究・世間話	研究・数学の話 世間話 英語で
間	何語で	英語で	ほとんど英語で スタッフとは日英半 々でトラブルなし	英語で	英語で	研究・数学の話 世間話 英語で
	その時のトラブル	事務室の人と日本語 で、トラブルなし				
関係	2) それ以外の所で だれと	日本人の家族や地域 の家族、ちかくの 魚屋・果物屋・八百 屋のみなどと 日常の色々なこと	日本人のサラリーマ ンの友人といろい ろなことを英語で。	2) それ以外の所では ほとんどなし。た まに観光地で日本 語で。	2) それ以外の所で アパートないの 人、教会の人、 息子の学校で	2) それ以外の所で 紹介してもらっ た日本人。 英語と日本語
	何について	日本語・英語で	日常はほとんど日本 語で 方言・日本人の習慣 ・考え方を理解して いない	日常はほとんど英 語	ほとんど英語	
係	何語で	日本語・英語で	方言・日本人の習慣 ・考え方を理解して いない	日常はほとんど英 語	ほとんど英語	
	その時のトラブル	なし				
情報 の 得 方	何	新聞・友達・研究所 の人から	近所のアメリカ人 や日本人からの 情報	たいていのニュー ース 英字新聞(毎日)	教会、英字新聞 英語ニュース	英字新聞、英語ニュー ース テレビ
	その方法	人と話したり、新聞 を読んだりして。	話を(英語新聞 がない)			
筑 波 コ ー ス へ の 意 見		もっとドリル・講習 (特に形容詞や接続 詞) して見につけた かった。	6週間ぐらい 漢数字・日本事情・ 日常会話をもっと まなびたかった。	カタカナ・漢数字・ 記号に近い漢字・日 常会話をもっと学び たかった。	感謝している。	日常に必要な漢字 (漢数字など)、 日本の習慣の紹介

3. 3. 受け入れ側からの日本語コースへの評価・要望の検討

指導教官や同僚への面接で得られた結果は、表5に示した通りである。全般的に、もっと日本語を学んでほしいという意見であった。そのための学習期間としては、3カ月ぐらいはかけてもいいと考えられているようであった。

3. 4. 調査結果のまとめ

調査結果をまとめると以下のとおりである。

(1) 日本語能力に関して

- 1) その後の日本語学習環境にもよるが、聞く能力(音、ディクテーション)は向上している。
しかし、Re-testの会話聴解については、コース中とくに聞き取りに困難さをあらわしていたものの出来がよくなかった。
- 2) 語彙、とくに名詞が増えている。
- 3) 助詞の正確さは低下している。

〈指導教官・同僚の意見〉（表5）

	B氏の 指導教官・同僚	C氏の 指導教官・同僚	D氏の 指導教官・同僚
学生に要求する 日本語	実際の研究活動には必要ないが、所内の研究ミーティング（毎週月曜日）では日本語がおもに使われるので、少しでも出来るようになるのは望ましい。 所内の人間関係がもっと円滑になるためにも、研究活動がもっと活発になるためにも日常会話が上手になるとよい。	所内での研究活動には日本語は必要ないが、もっと、どんどん日本を見聞し、幅のある研究者になってほしい。そのためにも、自分で、切符を買って、いろいろな日本での経験が出来るような日常の日本語は出来てほしい。	日本との架け橋になるような活動を期待している。そのためには、アメリカの状況を説明する講演などで日本語が使えるといい。 ミーティングは日本語だが、話合いはD氏には英語でしている。
筑波への要求	楽しそうに帰ってきたのでよかったが、もっと、日常の基本生活が自分で始められるような日常日本語力を望む	ゲート・インスティテュートのように、2・3ヵ月かけてもいいから、徹底的に日本語を見につけさせてほしい	まず1ヵ月やって職場に戻り必要を感じたらその後3・4ヵ月やる物になる日本語が期待できるなら、させる

* A氏・及び・E氏の指導教官は海外出張中にて聞けず。

4) 全体的にバランスのとれた形で少しずつ向上している（助詞の正確さは除く）。

(2) コースについて

- 1) 日本語の基本、上達への基盤、サバイバル術が学べたことは良かった。
- 2) 日本の習慣をもっと学びたかった。
- 3) 片仮名及び必要最低限の漢字は学びたかった。
- 4) サバイバル的な日本語、日本語会話をもっと学びたい。
- 5) 学習期間として、学習者は1ヵ月がちょうどいいと考えているが、受け入れ側の指導教官や同僚たちは、日本を理解し日常のことが日本語でできるようになるために、2～3ヵ月時間をかけてもいいと考えている。
- 6) 日本語教育のあり方として、学生は、研究と日本語学習が同時進行していくことを望んでいる。

4. 今後の課題および提言

(1) コースの教授内容及び教材について

- 1) 日本事情を織り込んだ基本的日常日本語会話を身につけさせるようなコースが必要で、例えば、NTTでの電話の取り付け交渉、不動産屋での家探し、銀行での口座開き、旅行の準備、

自己紹介などの場面を扱いながら、断わり方、話の進め方、感謝の仕方などを、日本人の行動の特徴を踏まえたかたちで教材、授業などに織り込んで行く必要があるのではないだろうか。

- 2) 文字は平仮名だけでなく、片仮名も漢字も扱うこと。科学の世界でよく使われる片仮名言葉、危険な毒物・薬物などの片仮名の名前等の教材化。また、記号や表示として使われているような漢字、例えば「非常口」「押す」「引く」「禁煙」等の漢字や数字の漢字は導入が望まれることから、表示的に使われている漢字の教材化。限られた少ない時間内での効率のいい文字指導の教授技術の開発が要求されるであろう。

(2) コースの目的と目標について

コース始めの彼ら自身の日本語能力への期待は、最終的には、自分達の研究を日本語で論議できるようになることであった。5人のうち3人は当初の計画通り1年の滞在で帰国したが、2人はその後延長し2年半の滞在になった。このような長期の場合であれば、先の彼らの期待も無理なものではなく、計画の立て方によっては実現可能なものである。

コース中の目的はサバイバル的な日本語力促成短期集中教育になるであろうが、その目標はただ単なる片言の日本語を目指すのではなく、長期の日本語教育、高い日本語能力への足掛りにもなりうるものでありたい。

そのためにも、コース中のコース・デザインだけでなく、コース後の日本語教育をも念頭においたコースのデザインを考え、赴任先での日本語学習についても指導してコースを完結させるという考え方も必要であろう。

(3) コースの実施時期と期間について

コース中、研究を中断していることへの不安感が高く、また赴任地適応への期待と不安が高いことなどで、来日直後の1カ月は彼ら自身が落ち着かない状態である。日本語を勉強したいという意欲はあるが、その時点での関心は、1ヶ月後に控えた赴任先との連絡、荷物を受け取ること、お金のこと等々である。それらのことが、一見交通の僻地にあるような筑波の地で、集中教育のために身動きのとれない状態におかれ、一時的に凍結状態にされてしまったように感じている。このような状況は、日本語の学習の理想的なものとはかけはなれている。実際、彼らが授業に落ち着いて参加できるようになったのは開始1週間後位からであり、終わる前の1週間はまた、次への移動でざわついているといった状態であった。正味は2週間の日本語教育であったと言い過ぎであろうか。

期間について、修了者たちは4、5週間でいいと回答している。それに比べて、受け入れ側はある程度高い日本語の達成が望めるのであれば、2、3カ月かけてもよしとしている。時期についても来日直後でなくても、実際に生活して日本語の必要性を十分感じてのち、学習してもいいといっ

た柔軟な態度が、受け入れ側にはある。

このコースが目的とするものは何かを、もう一度検討し、それに適合した時期と期間の検討をする必要があるだろう。

(4) コースの教授方法

以上の彼らの来日直後の状態を考えたとき、従来の教室活動による日本語教育の方法も検討されていないのではないと思われる。すなわちパソコン通信を取り入れた日本語通信教育の実現化はいかなるものであろうかと考える。

彼らにとっては、コンピュータの使用は日常化しており、パソコン通信操作そのものに関しては難しくなく、彼らの所属先は、パソコン通信が可能である場合が多いであろうと思われること、彼らは少しでも早く彼らの所属先に行き落ち着きたがっていること、等を考えると、パソコン通信による日本語教育がなされるといいのではないかと考えられる。当センターでの集中日本語教育4週間コースの期間を短くし拘束を少なくする、短縮されたその期間は、通信教育の教育者側と学習者側との信頼関係の形成に使われたり、学生同士の友好関係を築いたりするのにも使われる。また、日本語の音に慣れたり、文字を学んだり、日本の文化・習慣、日常生活の仕方を簡単に学んだりすることにも使われる必要があるであろう。そのあと、各地に赴任して、通信教育を続け、適当な時期にスクーリングのようなものを設けて、彼らの直面している日本語や日本事情の問題点を一緒に解決・指導していくのはどのようなものであろうか。これは、アンケートの回答にもあるように、日本語の学習の継続を望みつつできないでいると残念がっていることの解決にもつながるのではないだろうか。

しかし、この実現化には、通信教育に適した教材の開発、とくにまだ開発途上にあるCAIの早急の高度開発が必要であろう。日本語教育だけでなく、始めの間はとくに相手国の言語・事情に通じた日本語教師が要求されるであろう。日本語教育とは何かを問い直すことも必要となるであろう。また、パソコン通信をする受信・発信に伴う実務的な問題も多くあることと思われる。

付記

本稿は、平成元年度文部省科学研究費補助金（総合研究A）、課題番号01102036、研究代表者大坪一夫 研究課題名「外国人科学・技術研究者に対する短期集中日本語教育コースの運営に関する実証的研究」の補助を受けて行われた研究の一部である。

本追跡調査に快く協力して下さったコース修了者及びその指導教官・同僚の諸氏に深く感謝致します。

註

- 1) 1991年度からは日本学術振興会
- 2) 筑波大学留学生センターでは1988年5月から初級日本語教材用として作成を始め試作版(89年7月完成)、90年5月から現在にかけてはその改訂版も完成し、出版に着手しつつある。本稿に述べられているものは試作第一版を使用している。
- 3) 具体的な指導内容としては、1)各課に8コマ(一日4コマ 9:00-10:15、10:30-11:45、12:40-13:55、14:10-15:25で二日間)かける。2)1コマ目:前日の宿題をもとにした小テスト。前日の宿題のテープの内容確認。モデル会話のチェック。文法項目の確認、自己評価。2コマ目:CAI等により予習してきたはずの内容に関する確認を各自のペースとする。3・4コマ目:テキストのドリル中心に発話練習をする。5・6コマ目(二日目):テキストの会話ドリルを中心に、会話の流れをつかみ、その流れで適切な会話ができるようにさせる。7コマ目:モデル会話に戻り、そこでの行動目標が達成したかどうかを確認させ、タスクをさせる。8コマ目:ゲームなどで、応用力を養う。等である。
- 4) 面接の項目については当時当センターの非常勤講師であった江村裕文氏の考案によるところが多い。

参考文献

- 酒井たか子 三枝令子(1987)「日本語研修コース修了生に対する追跡調査報告」『筑波大学留学生教育センター日本語論集』第3号
- 監修 古田暁 著者 石井敏 岡部朗一 久米昭元(1987)『異文化コミュニケーション』有斐閣
- 鈴木宏昭 鈴木高士 村山功 杉本卓(1989)『教科理解の認知心理学』新曜社
- 岩原信九郎(1965)『教育と心理のため推計学』日本文化科学社
- 宮内克男 白佐俊憲(1980)『調査資料のまとめ方』川島書店
- Krashen, D. Stephen and Tracy D. Terrell (1983) "The Natural Approach: Language Acquisition in the Classroom" Alemany Press

(資料1)

RE-TEST

なまえ ()

1. Listen to the tape and choose the correct one.

- 1) () こども 2) () かいて 3) () しょうにん
() ころも () かいてい () しょうにん
4) () ほっそく 5) () たんにん 6) () かんばん
() ほそく () たにん () かんばん
7) () むつう 8) () きってください
() むちゅう () きってください

2. Listen to the tape and write down in HRAGANA (ひらがな). (If you cannot, you may write in romaji.)

- 1) []
2) []
3) []
4) []
5) []

3. Put the appropriate particles in the parentheses. (If a particle are not required, put a ϕ in the parenthese.)

- 1) さとうさん () にほんじんです。たなかさん () にほんじんです。

2) さとうさん () たなかさん () にほんじんです。

3) A: さとうさん () せんもん () なんですか。

B: けいざいです。

4) きのう、さとうさん () いっしょに、テレビ () みました。

5) A: はがき () だれ () かいましたか。

B: まとばせんせい () かいました。

6) さとうさん () アメリカ () てがみ () だしました。

7) これ、こうくうびん () おねがいます。

8) A: コーヒーはホットですか、アイスですか。

B: アイス () します。

9) コーヒー () ふたつ () ください。

10) さとうさんはカレー () コーヒー () ちゅうもんしました。

11) ゆうびんきょく () きって () かいました。

12) A: ごいっしょですか。

B: いいえ、べつべつ () してください。

13) A: おすし () たべました。

B: すきやき () たべましたか。

A: いいえ、すきやき () たべませんでした。

14) A: このへん () でんわ () ありますか。

B: いいえ、このへん () ありませんね。

15) A: でんわ () どこにありますか。

B: エレベーター () まえ () あります。

16) A: としょかん () となり () なに () ありますか。

B: ゆうびんきょく () あります。

- 17) あした、じゅぎょう () ありません ()、うちにいます。
- 18) A: だいがく () ちかくには、ゆうびんきょく () ありますか。
B: はい、あります。
A: ぎんこう () ありますか。
B: いいえ、ぎんこう () ありません。
- 19) A: たなかさん () どこ () いますか。
B: けんきゅうしつ () います。
- 20) わたしはともだち () カメラ () もらいました。
- 21) どれ () まとばせんせい () ほんですか。
- 22) バス () のりました。
- 23) かんじ () べんきょうします。
- 24) たなかさん () さとうさん ()、どちら () ほう () せ () たかいですか。
- 25) このひとたち () なか ()、だれが、いちばん、せ () たかいですか。
- 26) ほかに () ひと () きいてください。
- 27) つくばだいがく () いきます。

4. Fill in the blanks.

えいご	dic-form	te-form	masu-form
read	よむ		
see		みて	
go home	かえる		
study	べんきょうする		
hear	きく		
buy	かう		
give		あげて	
write	かく		
learn	ならう		
hurry			いそぎます
borrow	かりる		
drink	のむ		
teach		おしえて	
come	くる		
use			つかいます

(資料2)

REVIEW TEST

名前 ()

(I) Listen to the tape and choose the correct one.

- 1) | 1) | 2) | 3) | 4) |
- | | | | |
|-----|------|-------|------|
| こども | かいて | しょうにん | ほっそく |
| ころも | かいてい | しょうにん | ほそく |

- 5) | 6) | 7) | 8) |
- | | | | |
|------|------|------|---------|
| たんにん | かんばん | むつう | きってください |
| たにん | かんばん | むちゆう | きてください |

(II) Listen to the tape and write down in ひらがな

- 1) []
 2) []
 3) []
 4) []
 5) []

(III) Fill in the blanks.

Examples

- よみます → [よみません] (non-past negative)
 to read → [よみません] (non-past negative)
 1) かきます → [] (non-past negative)
 2) みます → [] (past affirmative)
 3) かえります → [] (past affirmative)

- 4) いきます → [] (past negative)
 5) べんきょうしました → [] (non-past affirmative)
 6) ききました → [] (non-past negative)
 7) かいません → [] (past negative)
 8) しませんでした → [] (past affirmative)
 9) あげます → [] (non-past negative)
 10) もらいます → [] (past affirmative)
 11) はらいます → [] (past affirmative)
 12) ならいます → [] (past negative)
 13) ちゅうもんしました → [] (non-past affirmative)
 14) よびました → [] (non-past negative)
 15) かいません → [] (past negative)
 16) かりませんでした → [] (past affirmative)
 17) to drink → [] (non-past negative)
 18) to teach → [] (past negative)
 19) to come → [] (non-past negative)
 20) to send (mail) → [] (past negative)

(IV) Put the appropriate particles in the parentheses. (If a particle are not required, put a ϕ in the parentheses.)

- 1) さとうさん () にほんじんです。たなかさん () にほんじんです。
 2) リサさん () アリさん () りゅうがくせいです。
 3) A: リサさん () せんもん () なんですか。

- B：けいざいです。
- 4)きのう、てがみ()かきました。
- 5)つくばだいがく()いきます。
- 6)うち()ラジオ()ききました。
- 7)きのう、アリさん()いっしょにテレビ()みました。
- 8)A：はがき()だれ()かいましたか。
B：まとばせんせい()かいました。
- 9)たなかさん()アメリカ()てがみ()だしました。
- 10)これ、こうくうびん()おねがいします。
- 11)コーヒー()ふたつ()ください。
- 12)A：コーヒーはホットですか、アイスですか。
B：アイス()します。
- 13)アリさんは、ビーフカレー()コーヒー()ちゅうもんしました。
- 14)ゆうびんきょく()きって()かいました。
- 15)A：ごいっしょですか。
B：いえ、べつべつ()してください。
- 16)たなかさんは、リサさん()とうきょう()いきました。
- 17)A：きのう、はがき()かいました。
B：きって()かいましたか。
A：いいえ、きって()かいませんでした。
- 18)A：このへん()でんわ()ありますか。
B：でんわですか。このへん()ありませんね。
- 19)A：でんわ()どこ()ありますか。

- B：エレベーター()まえ()あります。
- 20)A：としょかん()となり()なに()ありますか。
B：ゆうびんきょく()あります。
- 21)あした、じゅぎょう()ありません()、とうきょうへいきます。
- 22)A：だいがく()ちかくには、ゆうびんきょく()ありますか。
B：はい、あります。
A：ぎんこう()ありますか。
B：いいえ、ぎんこう()ありません。
- 23)A：たなかさん()どこ()いますか。
B：きょうしつ()います。。
- 24)わたしは、ともだち()カメラ()もらいました。

(資料3)

ACHIEVEMENT TEST

なまえ ()

(I) Fill in the blanks.

Examples

- よむ → [よみません] (non-past negative)
to read → [よみません] (non-past negative)
- 1) to write → [] (te-form)
 - 2) to see, look at → [] (formal past affirmative)
 - 3) to eat → [] (formal past affirmative)
 - 4) to say, soeak → [] (te-form)
 - 5) to study → [] (te-form)
 - 6) to hear, listen → [] (te-form)
 - 7) to drink → [] (te-form)
 - 8) to hurry → [] (te-form)
 - 9) to come → [] (polite past negative)
 - 10) to do → [] (polite past affirmative)
 - 11) to pay → [] (te-form)
 - 12) to go home → [] (te-form)
 - 13) to give → [] (polite past negative)
 - 14) to buy → [] (te-form)
 - 15) to send, mail → [] (te-form)
 - 16) to learn → [] (polite past negative)
 - 17) to teach → [] (polite non-past negative)

- 18) to go home → [] (te-form)
- 19) to use → [] (te-form)
- 20) はいる → [] (polite past negative)
- 21) まつ → [] (te-form)
- 22) ちゅうもんする → [] (in English)
- 23) よぶ → [] (te-form)
- 24) かりる → [] (polite past negative)
- 25) みせる → [] (in English)

(II) Put the appropriate particles in the parentheses. (If a particle are not required, put a ϕ in the parentheses.)

- 1) まとばさん () あおきさん () せんせいです。
- 2) うち () ラジオ () ききました。
- 3) とうじょうさん () NSF () てがみ () だしました。
- 4) これ、こうくうびん () おねがいます。
- 5) A: コーヒーはホットですか、アイスですか。
B: ホット () します。
- 6) おおつぼせんせいは、ビール () カレー () ちゅうもんしました。
- 7) ゆうびんきょく () はがき () かいしました。
- 8) A: ごいっしょですか。
いえ、べつべつ () してください。
- 9) えむらせんせい () きんだいちせんせい () とうきょう () かけりました。

- 10) A: でんわ () どこ () ありますか。
B: かいだん () まえ () あります。
- 11) あした、じゅぎょう () ありません ()、とうきょうへいきます。
- 12) A: だいがく () ちかくには、ゆうびんきょく () ありますか。
B: はい、あります。
A: ぎんこう () ありますか。
B: いいえ、ぎんこう () ありません。
- 13) わたしは、ともだち () ラジオ () もらいました。
- 14) A: となり () へや () だれ () いますか。
B: こみやせんせい () います。
- 15) A: どれ () とむらせんせい () ほんですか。
B: それです。
- 16) きのう、バス () のりました。
- 17) わたしはわかりませんから、ほか () ひと () きいてください。
- 18) まいにちかんじ () べんきょうします。
- 19) えむらせんせい () きょうしつ () ねました。
- 20) このへん () じどうはんばいき、ありますか。
- 21) たなかさん () すずきさん () どちら () ほう () せ ()
たかいですか。
- 22) A: このひとたち () なか () だれ () いちばんせ () た
かいですか。
B: アリさん () いちばんせ () たかいです。
- 23) でんしゃ () いかないほう () いいです。
- 24) きのう、きれい () セーター () かったです。

25) にわせんせい () バス () おりましたよ。

26) まど () ところ () やまもとせんせい () います。

(資料4)

NSF インタビュー項目

学生氏名

調査者氏名

調査年月日

年 月 日
時～ 時

【1】人間関係に関するインタビュー

① 大学・研究所内での関係について

指導教官と話をしますか

何について話しますか

それは何語で話しますか

そのとき何かトラブルはなかったですか

指導教官以外の教師と話しますか

それは誰ですか

何について話しますか

それは何語で話しますか

そのとき何かトラブルはなかったですか

同僚・スタッフの日本人と話しますか

何について話しますか

それは何語で話しますか

そのとき何かトラブルはなかったですか

大学・研究所内でその他の日本人とは話しますか

それは誰ですか

何について話しますか

それは何語で話しますか

そのとき何かトラブルはなかったですか

【2】情報を得る方法

①最近の話題で何を知っていますか。

国内の話題 衆議院選挙等

海外の話題 ベルリンの壁等

②その情報は何によって得ました。

テレビ・ラジオ・新聞・日本人の話

(それは誰ですか)

【3】筑波コースに対する意見

コースで指導しておいてもらいたかったことは何ですか。

日本語に関して

日本人に関して

日本の生活に関して

その他

② 大学・研究所外での関係について

指導教官と話をしますか

どこで話しますか

何について話しますか

それは何語で話しますか

そのとき何かトラブルはなかったですか

指導教官以外の教師と話しますか

それは誰ですか

どこで話しますか

何について話しますか

それは何語で話しますか

そのとき何かトラブルはなかったですか

同僚・スタッフの日本人と話しますか

どこで話しますか

何について話しますか

それは何語で話しますか

そのとき何かトラブルはなかったですか

近所の人と話しますか

何について話しますか

それは何語で話しますか

そのとき何かトラブルはなかったですか

大家さんと話しますか

何について話しますか

それは何語で話しますか

そのとき何かトラブルはなかったですか

大学・研究所の外でその他の日本人と話しますか

それは誰ですか

何について話しますか

それは何語で話しますか

そのとき何かトラブルはなかったですか

(資料5)

指導教官に対するインタビュー項目

教官氏名

調査者氏名

調査年月日 年 月 日
時～ 時

【1】本人に対するインタビューから

本人によると、(場所)で(話題)について(日本・英)語を使っているということですが、だいたいそういうことですか。

- ① で について
- ② で について
- ③ で について
- ④ で について
- ⑤ で について

【2】印象

本人は一ヶ月日本語を勉強してここに来たわけですが、主に彼の日本語に関して最初の印象はどうでしたか。

- よくできる
- こんなものか
- 全然使い物にならない

何カ月か経つうちに印象が変わりましたか。

- 変わらない

少し変わった—日本語の力がある

—思ったよりない

【3】日本語力の期待

一ヶ月間の日本語学習に何を期待していますか。

- 全く必要ない
- 勉強の仕方程度
- 挨拶程度
- 日常生活に支障がない程度

もしもっと期間が長いとしたらどこまで指導しておくことを期待しますか。期待している項目、できたほうがよいと思われる項目は何ですか。

- レポート・論文作成
- 文献資料を読む
- 研究中の指示がわかる
- 日本人スタッフとの討論・発表
- 事務手続き
- 日常会話
- その他

※文字に関してはどうですか。

ひらがなはどの程度ですか。

かたかなはどの程度ですか。

漢字はどの程度ですか。

全く必要ない

日常目にする漢字は読み方はわからなくても意味はわかるように

専門分野の漢字に関してはどうか

(資料6)

QUESTIONNAIRE

The questionnaire is structured as follows.

A. Regarding your Japanese studies

A 1. Studying at university

A 2. Studying on your own

A 3. Other form of Japanese study

B. Your use of Japanese

B 1. Within the university

B 2. Outside the university

C. Your ability in Japanese

D. Regarding Tsukuba University's Japanese course at the Education
Center for Foreign Students

A. REGARDING YOUR STUDY OF JAPANESE

A 氏	B 氏	C 氏	D 氏	E 氏	合計
N	N	N	N	N	5N
N	N	N	N	N	5N

1. Study at university

• Are you now studying Japanese at university?
(Yes, No)

1-1. If you answered 'yes',

a. () hours per week

b. With whom

• class teacher

• tutor

• other ()

c. Text ()

1-2. If you answer 'no',

Have you studied Japanese at university
since the NSF Japanese course finished?
(Yes, No)

1-2-1. If you answer 'yes',

a. () hours per week

b. From month (), year ()
to month (), year ()

c. With whom

• class teacher

• tutor

• other ()

d. Text ()

A 氏	B 氏	C 氏	D 氏	E 氏	合計
N	N	N	Y	Y	^{3N} _{2Y}
N	N	Y	N	Y	^{3N} _{2Y}

A 2. Studying on your own

1. Are you now studying Japanese on your own?
(Yes, No)

1-1. If you answered 'yes',

a. About () hours per week

b. What type of Japanese are you studying?

() Japanese from your field of study

() Review of what you studied at Tsukuba Univ.

() kanji

Other ()

c. The Text you are using

() The book(s) from your field (Titl

() The text(s) you used at Tsukuba Univ.

Other ()

D氏 Kanji Book ..by The Japan Fanidation

E氏 d :Rerding and Writing Japanese 880

Basic kanji :

d. How you study

() Watching television

() Listening to the radio

() Reading newspapers

Other ()

3. Study outside niversity (such as a Japanese
course outside university

1. Are you now studying Japanese outside university ?
(Yes, No)

1-1. If you answered 'yes',

A氏	B氏	C氏	D氏	E氏	合計
		1 2 Tutor 会話 EJの BJ		4 手帳 スケール 文法 今回の 教科書	
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	5
		少し 日本語			
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	5

- a. () hours per week
 b. With whom ()
 c. What are you studying ?
 ()
- d. The text you using
 C氏: "Beginning Japanese" (Jordan's)
 (E氏: "Comprehonsive Jaoanese" (Imai)
- B. YOUR USE OF JAPANESE**
- B 1. Your use of Japanese at university**
- Please indicate whether or not using Japanese at university.
1. What language do you use when you use speak with your academic adviser?
 () Only Japanese
 () Only English
 () Mainly Japanese
 () Mainly English
 () Half and half
 Other ()
2. Regarding your field of study, what language are the books and other materials written in?
 () Only Japanese
 () Only English
 () Mainly Japanese
 () Mainly English
 () Half and half
 Other ()

A氏	B氏	C氏	D氏	E氏	合計
<input type="radio"/>	経験 なし	経験 なし			1
			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	1
					1
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	5
N	N	セミ ナー-Y	Y	Y	2 N 3 Y
			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	3
	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	3
<input type="radio"/>					1
					1

3. In what language are your university lectures conducted?
 () Only Japanese
 () Only English
 () Mainly Japanese
 () Mainly English
 () Half and half
 Other ()
4. In what language do you write reports and thesis?
 () Only Japanese
 () Only English
 () Mainly Japanese
 () Mainly English
 () Half and half
 Other ()
5. Have you ever given a class presentation?
 (Yes, No)
- If you have, in what language did you present you talk?
 () Only Japanese
 () Only English
 () Mainly Japanese
 () Mainly English
 () Half and half
 Other ()
6. In what language do you speak with members of staff?
 () Only Japanese
 () Only English
 () Mainly Japanese
 () Mainly English
 () Half and half
 Other ()

A氏	B氏	C氏	D氏	E氏	合計
		○			1
○	いない		○	○	3
	なし	なし			
○			○		2
Y	Y	Y	Y	Y	5Y
		○			1

7. In what language do you speak with the Japanese students in your study room?

- () Only Japanese
- () Only English
- () Mainly Japanese
- () Mainly English
- () Half and half
- Other ()

8. What difficulties do you have with Japanese specific to your field of Japanese?

- A氏: コンピュータ操作マニュアルが日本語でかかれていていること。
- D氏: 図書館で資料が早く捜せないこと。
- E氏: むずかしい漢字、専門用語

9. How do you overcome above difficulties?

- () Ask a teacher
- () Ask a friend
- () Check it yourself
- Other ()

B2. Your use of Japanese outside university.

1. Do you have any Japanese friends? (Yes, No)

1-1. If you answered 'yes',

What language do you converse in?

- () Only Japanese
- () Only English
- () Mainly Japanese

A氏	B氏	C氏	D氏	E氏	合計
○			○	○	3
	○				1
		なし			
				○	2
○		○	○		3
英語で	英語で	英語で	英語で	英語で	
	○	○			
			○		

- () Mainly English
- () Half and half
- Other ()

2. What difficulties have you encountered with the Japanese language?

- A氏: 語彙の不足 (特に形容詞、接続詞)
- B氏: 秋田弁
- D氏: 助詞と語彙

3. What have you been the most difficult aspect of the Japanese language for you up until now?

- A氏: 語彙
- B氏: 日本語の教師を秋田で見つけること
- D氏: 語彙
- E氏: 読み書き

C. YOUR ABILITY IN JAPANESE

C1. What is your present level of Japanese? (circle the appropriate answer)

1. In daily life

- () Understand well
- () Understand on the whole
- () Do not Understand very much
- () Do not Understand

2. When you speak with your supervisor

- () Understand well
- () Understand on the whole

A氏	B氏	C氏	D氏	E氏	合計
					1
					3
					2
					3
					2
					3
					2
					3
					1
					4
2	3	2			②-2人 ③-1人
1	1	1		1	①-4人

() Do not Understand very much
 () Do not Understand

3. The Japanese used in books and other materials in your field of study

() Understand well
 () Understand on the whole
 () Do not understand very much
 () Do not understand

4. The Japanese spoken in the university lectures if your field

() Understand well
 () Understand on the whole
 () Do not Understand very much
 () Do not Understand

5. Giving a presentation in Japanese (do you think you can?)

() Can
 () Can on the whole
 () Cannot very well
 () Cannot

6. Writing a report or thesis in Japanese

() Can
 () Can on the whole
 () Cannot very well
 () Cannot

7. What are your weakest points in Japanese?
 (number your first, second and third weakest points below)

() Grammar
 () Kanji

A氏	B氏	C氏	D氏	E氏	合計
			2	3	②-1人 ③-1人
			3	2	②-1人 ③-1人
3		3			③-2人 ①-1人 ②-1人
	2		1		
					3
					2
					5
					3
					1
					1
					3
					2

() Speaking ability
 () Reading ability
 () Writing ability
 () Listening ability

8. Which is better, your Japanese ability when you had just completed the 1month of study at the center or your Japanese ability now?

a. Grammar

() Better now
 () Better then
 () About the same
 () Do not know

b. Kanji

() Better now
 () Better then
 () About the same
 () Do not know

c. Speaking ability (better now better then about the same)

() Better now
 () Better then
 () About the same
 () Do not know

d. Reading ability

() Better now
 () Better then
 () About the same
 () Do not know

e. Writing ability

A氏	B氏	C氏	D氏	E氏	合計
		<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	2
<input type="radio"/>					1
	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>		2
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	5

- () Better now
 () Better then
 () About the same
 () Do not know

f. Listening ability

- () Better now
 () Better then
 () About the same
 () Do not know

ほんの
少しだけ

REGARDING TSUKUBA UNIVERSITY'S JAPANESE COURSE
 AT THE EDUCATIONS FOR FOREIGN STUDENTS.

D1. What do you think about the center's Japanese course?

1. What aspect of it was useful?

- A氏：日本語の基本を学んだこと。上達する基盤を組めたこと。
 B氏：1) 基礎日本語の知識。2) 旅行 3) 練習
 C氏：良いオリエンテーションと基本的のサバイバル技術基本文法
 D氏：全て
 E氏：ひらがな、かたかなで読み書きを学んだこと。

2. What aspect of it was not useful?

- A氏：CAI はあまり役立たなかった。
 テープはあまり聞かなかった。
 B氏：ある漢字
 CAI
 C氏：漢字
 習った語彙はあまり普段使わなかった。
 D氏：なし
 E氏：実地練習

A氏	B氏	C氏	D氏	E氏	合計
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	4
	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>	2
			<input type="radio"/>		1
4~5	6	3~4	6	4	約5

3. What would you have liked to study in more depth?

- A氏：もっと練習を。(形容詞と接続詞)会話に必要なから
 B氏：日本の習慣を。
 漢字
 C氏：文化
 基礎会話
 D氏：文法
 場面にあった練習。
 E氏：漢字
 日本の習慣

4. How do you feel about studying from books written in Japanese in your field?

- () Necessary
 () Unnecessary
 Other ()

5. How did find your study of Kanji?

- () Should have been less
 () Should have been more
 () Just right
 Other (A氏：学校では無理だが、サインを読んだり、
 名札特に、駅名や場所の名前から学んだ。)
 C氏：ちがう漢字を。

6. How many weeks do you think would have been suitable for studying Japanese at the Tsukuba Foreign Students center?

- () weeks
 () Unnecessary

7. Why?

- A氏：研究が目的なのであるから、これ以上はいい。
 B氏：1ヶ月は、日本語の基礎を得るのには少し短いと思う。
 C氏：2週間たった頃から、頭に入り始めた。4~5週間だった
 ら、どんなまじめな科学者も研究から離れても大丈夫。
 D氏：自分の場合、各章に少し余計時間がかかった。コース
 が終わってからやっと追いついた。
 E氏：1ヶ月以下は不十分だし、以上では気が変になってしまうだろうから。

A氏	B氏	C氏	D氏	E氏	合計
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	5
<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	4
		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	3

必要な
ものだけが

8. What kind of Japanese would have liked study ?

- () Daily conversation
 () Specialized or technical terms
 () Grammar
 () Kanji
 Other ()

9. What do you think of the education provided by the Foreign Students Education Center ?

A氏：日本語上達への基礎がえられて、良かった。

B氏：全体的によかったが、基本的日本の習慣や文化がほしかった。

C氏：良かった。旅行者用の日本語学習を望む。

D氏：かなり役に立った。その1ヶ月前は何も助けてはもらえないと思っていたので。

E氏：とても良かった。

名 詞 ・ そ の 他

そば 料理 あ料理 蕎麥 箸 たて なまき (ぎゅう) 豚鳥 漬物 た子供 お父さん お母さん おお姉さん おお婆さん おおじいさん おおばあさん 娘 息子 友達 允談 性行 銀庫 金庫 銀行 庫人 庫信 郵便 局本 函館 ビール 建病院 本市 東西南北 口山海 社 陸 丘塚 車車 電車 紙紙 切手 航空 民旅 温泉 風呂 風呂 草戸 井部 石川 学犬 猫電 気天 雨雪 風窓 机電 話肉内 中前 上下 左右 義理

かん (間) びール お腹 お絵 目火 いわび 酒子 歳英 話語 ドイツ人 ドイツ人 日本 人語 スス スス フラン フライ 電話 車コ 新幹線 大学 学生 森川 本本 本本 パン パン デ都 都近 近 居鳥 蝦 蝦り 卵本 梅焼 町紙 釜水 お紅 茶チ 車下 上 牧畑 稲米 左右 隣お 母さん 昔わた 日窓 洗冷 ガス 電貴 布団 炬ラ 航便 病院 セいた 雙住 番か ひら 漢島 半緑

自転車 電車 地下鉄 あそこ 後こ 時間 間まう 何こ おお 紙水 手口 入出 前近 上下 丸次 終温 手女 男奥 家たう 鱒花 尖川 通道 切手 郵便 局銀 行百 花屋 へ紫 まつ ひー とう (お) 100 千方 一回 課い が、で から こ 時 へ 別 朝午 明日 昨日 来去

室教育 音整 数学 数定 腹扇 旗干 も 数学 物院 気と 病院 天も 女男 妹弟 鳩 社 郵便 局郵 便 局 駅 郵 店 部 屋

	地下鉄 心配問題 緑木村林森神社 寺宮馬手耳花鼻火 目山羊 間極写真湯酢醬油 日本酒 池谷さいばう かぞう 蕪てんぶら 字分日月年 1~10 百千万億 辞書住所 地図 髪髻後ろ 国家 映画話 日本語 一般相対性理論 物理学 数学 喉まで から	県 ど ち ら 誰 著 今 晩 は	(154)					
	(215)							
形 容 詞 ・ 形 容 動 詞	大きい 小さい 黒い 新しい 赤い 楽しい 高い 長い 安い 暑い 寒い 古い 新しい 白い 黒い 高い 安い	大きい 小さい 暑い 寒い 古い 新しい 白い 黒い 高い 安い	(12)	大きい 小さい つだめ 黄色い 赤い 白い きれい あおい 高い 暑い 寒い 新しい 白い いい	(17)	赤い 悪い 長い 短い 高い 安い 難しい やさしい 静か きれいな 有名 だめ 結構 便利 不便 不寒い 重い 軽い	いい 大きい 寒い 暑い 暖かい まずい 涼しい おいしい 忙しい 大切 はやい	(12)
合計	277	182		139	99	110		